

**令和5年度第1回高砂市文化財保存活用計画協議会
議事概要**

日	時	令和5年8月17日(木) 13:30~16:00
場	所	高砂市役所本庁舎4階405会議室
資料	会議次第	
		高砂市文化財保存活用地域計画協議会 名簿
	資料1	: 令和4年度第2回高砂市文化財保存活用地域計画協議会 議事概要
	資料2	: 高砂市の歴史文化の特徴(案)
	資料3	: 歴史文化のテーマ別成果と検討課題
	資料4	: 高砂市における文化財の保存・活用に関する現状と課題(骨子)
	資料5	: 関連文化財群と文化財保存活用区域について
	資料6-1	: 自治会アンケート
	資料6-2	: 中学生アンケート
	資料7	: 今後のスケジュール
参考資料1	: 高砂市文化財保存活用地域計画(素案) <はじめに~第2章>	

- → 協議会会員発言
○ → 事務局発言

1. 開会(事務局)

2. あいさつ(教育長)

- 台風がやって来てまた今日も雨だが、とても暑かったので、雨が降り気温が下がって嬉しい。本日は、令和5年度第1回高砂市文化財保存活用地域計画協議会にご出席頂き感謝申し上げます。本協議会は、皆様からのご意見を頂き、文化財の保存・活用を推進するための基本的な方針や措置をまとめていく場である。昨年2月の会議における歴史文化基本構想の事業へのご意見等を反映したものを本日報告する。また、文化財の保存・活用は行政だけでは十分行うことが出来ないので、企業・地域の方、学識経験者の皆様のご意見を伺いながら、良い計画を作っていききたい。どうぞご協力をお願いしたい。

2' . 会長あいさつ

- 「文化財」と一言でいうが、これは指定・登録されていない、あるいは把握されていないものも含めて地域の特性を表すものを総体的に捉えていく必要があり、それらの文化財の保存・活用をいかに進めていくかというアクションプランを作成する重要な会議がこの協議会である。文化財を通じて、地域の魅力を発見し、地域の人々が元気になっていくということが一番大事だと思っている。皆様の忌憚のないご意見を頂きながら進めていききたい。どうかよろしくをお願いしたい。(会長)

3. 報告

(1) 令和4年度第2回高砂市文化財保存活用地域計画協議会の協議内容

(2) 高砂市文化財保存活用地域計画（素案）について（事務局説明）

●意見が2点ある。1点目は、参考資料1の2ページ図1についてである。現在の国による文化財の考え方は、これまでの指定文化財だけを指すのではなく、法律用語に基づいたより広い文化財の解釈に近づいたと理解している。実は、高砂市においては、歴史文化基本構想の策定を文化財把握総合モデル事業として実施しており、その成果はこのような文化財の考え方に大きく影響を与えるようなものであった。そのような経緯を踏まえると、歴史文化基本構想で使用していた「歴史文化資源」という用語を「文化財」に改めるということについて記述すべきではないか。歴史文化基本構想と地域計画がバラバラではなく、連続したものであることを示すためにも、用語の整理の仕方について追記してほしい。2点目は、計画期間についてである。文化庁は、計画期間について概ね10年を想定されているが、正式には言及していないと認識している。図3をみると、高砂市の総合計画と地域計画が完璧に半期ずつずれている。今回の計画は10年ではなく5年とし、第6次総合計画策定時に併せて、第2期計画として地域計画を改めて作成してはどうか。そのようにして、総合計画と足並みをそろえていけるような形にしたほうが良いのではないか。（副会長）

⇒副会長のご意見は、5年間の計画目標をまず立てて、第5次総合計画から第6次総合計画への切り替えの際に一度5年間の取組みを見直して改めて計画を検討したほうが、取組みをより具体化できるのではないかとのご指摘であった。（事務局）

➡行政的な取り扱いとして、認定後何年間の期間とする等の規定はあるのか。（会長）

➡特にそのような規定は明確にはされていない。ただし、副会長のご意見のように、総合計画をにらむことは重要で、総合計画と乖離した形で検討が進んでいくことを国は想定していない。実際には、県内でも、総合計画の境目と地域計画の検討時期や実施時期が必ずしもうまくフィットしていない事例がたくさんある。第5次総合計画の期間を第1期と捉えて、第6次に向けて書き直し、新しい方向性を検討するというのが1つの考え方である。もう一つは、あえて総合計画の改定時期に、地域計画のマイナーチェンジのタイミングを合わせるといった考え方もある。いずれにしても、総合計画をにらんだ形とすることが大切である。もう1点、「歴史文化遺産」という言葉についての意見が副会長から出た。兵庫県の場合は、平成15年度に歴史文化遺産基本構想を策定して以来、国に先駆けて「歴史文化遺産」の取組みを進めてきた。全国における地域計画の動きの前には、こうした兵庫県の取組みが非常に大きな役割を担ったと認識している。一方で、地域計画の中で「歴史文化遺産」という名称を使用することは、国としてはあまり好ましくないと言われることがある。副会長の発言の意図は、高砂市における文化財の考え方のプロセスをきちんと計画にも示すべきだということで、それはすごく重要な指摘である。（会員）

⇒ご指摘を受けて、参考資料2ページについて、これまでの経緯を踏まえながら、今回の地域計画では「歴史文化資源」を「文化財」という用語に統一するということを記載する。また、計画期間については、庁内で検討を行う。（事務局）

●参考資料1の1ページ3段落目について、少子高齢化の進行、新型コロナウイルスの流行、災害の激甚化、文化財火災の増加と並んでいる。文化財を取り巻く社会情勢が書かれている中で、文化財火災の増加が併記されていることに違和感がある。確かに火災は問題となっているが、その背景には少

子化や文化財に係る費用の問題等が関係しているかもしれない。火災の増加を自然災害等と並べて記載する理由があれば教えて頂きたい。(会員)

⇒適切ではなかったかもしれない。(事務局)

➡もし火災について記載したいのであれば、空家の増加や後継者不足等、文化財に絡む他の課題もいくつか列挙すれば良いのではないか。(会員)

⇒ご意見を参考に記述を改める。(事務局)

4. 協議

(1) 高砂市の歴史文化の特徴について(事務局説明)

●歴史文化のテーマについて、8ページでは横に、9ページでは縦にレイアウトされている。全体を通して横につながるようなダイアグラムにすると分かりやすいのではないか。この地域計画を誰が見るのかを考えたときに、個人的な希望としては、市民の方々に読んでもらいたい。なぜなら、その方々が今後の文化財の担い手になるからである。そうすると、地域計画を読みやすくするというのも一つのポイントだと思う。また、テーマの解説の中でお祭りのことが記載されているが、13ページと15ページの両方に出てくる。13ページでは、子ども等の伝統行事として紙衣を使った七夕が取り上げられており、15ページではみなとのまつりの文化が書かれている。私自身があまり分かっていないこともあり、例えば七夕が塩づくりとどう関係するのか、一つ物がみなととどう関係するのか分かりにくかった。お祭りはそれぞれのエリアの宝ではないかと思う。テーマごとに文化財が分けられるのはとても良いと思うが、市民が読むときには、自分が所属している地域のことをみてどんな宝があるのかをまず分かってもらうことが重要だと思う。そうすると、地区ごとの位相も必要ではないか。入れてしまうとややこしくなるかもしれないが、より市民の人が関心を持ってくれるのではないか。(会員)

⇒前回の協議会では、8つの地区が高砂市にあり、4つの歴史文化のテーマとそれぞれの歴史が関連し合うということを説明し、会員からは面白いというご発言を頂いた。しかし、今回改めて歴史文化のテーマを整理する中で、エリアを区切ると、市域を貫くようなテーマがうまくまとまりきらず、あえて今回は地区別の特徴の違いや特性については触れていない。ただし、今後、文化財の取組みを進める中では、地区や校区ごとのコミュニティで動いていくこととなり、8地区を意識する必要があると考えている。また、祭りについては、確かに13ページと15ページの両方に出てきている。15ページでは、海に近い地域の祭りをイメージし、13ページでは塩田集落の曾根の一つ物が入っている。このあたりについては、はっきりと整理しきれていない。(事務局)

➡塩づくりは象徴的なものであるが、実際には塩づくり以外にも様々な生業があり、細かく見ればそれぞれ関連もあると思う。例えば荒井神社の仁輪加太鼓の中には、「荒井塩田」という演目がある。「頃は寛永はじめ時～」で始まり、荒井の庄屋の六左衛門が古式塩田を改良して入浜式塩田をつくったという話である。それを江戸に持っていくと非常に評判が良かったということで、入江家等に広まっていった。その後塩田は、価格競争に負けて、やがて綿づくりから木綿づくりに、さらに進んでメリヤスづくり等に繋がっていった。このように、産業も生活も続いていった。ただし、こうしたことを全部この小さいスペースにまとめるのは至難の業だと思う。塩づくりに象徴されるのは確かだが、タイトルを「様々な生業」等としてまとめたらどうか。(会員)

⇒曾根町で製塩業を営んでいた旧入江家住宅が県指定文化財となっていて、実際に事業も動いていることから、テーマの拠点となると解釈している。このように、実際の事業に直結する歴史文化が塩づくりなので、歴史文化基本構想に引き続いてこのテーマを維持した。塩以外の農業等の生産活動を「生業と人々の暮らし」としてまとめてはどうかというご提案があったが、他の会員からもご意見を頂きたい。(事務局)

➡きれいにまとめるのは非常に難しいと思うが、混乱しているように感じる。塩づくりだけではなく、「暮らし・生業」という視点で、みなとのまちで取り上げられている漁業等もまとめてしまってもどうか。漁業を無理やりみなとのまちに関連付けても、塩づくりも海と絡んでしまう。おそらく近代の工業都市への展開も生業と関わる。業に関わるものは全て「暮らし・生業」の中で整理してはどうか。一方、みなとのまちは「交通・インフラ」に着目して、白砂青松の中で取り上げられている西国街道等もこの中で整理する。石の文化は特出したいのだと思うので、それは良いと思う。このように整理していくと、近代化とまちづくりの方向性ももう少しクリアになるのではないかと。また、資料2の18ページについて、文章では「レンガ・マッチ・瓦」の記載もあるが、実際に写真で挙げられているのが製紙工場や醤油工場である。文章と写真についても整理してほしい。(会員)

●商工観光協会では、10年程前に景観賞の取組みを行った。その際に、塩田の農家の茅葺民家等も候補となっていた。工業用地になる前の塩田の名残が残っていた頃の茅葺民家も海岸沿いにあった。(会長)

➡荒井駅の北西あたりには茅葺の漁業組合の建物がある。(副会長)

⇒茅葺民家に関しては、歴史文化基本構想の際に調査を行っている。635件の古い民家のうち、36件が茅葺民家であり、その半分の18件は北浜の民家であった。(事務局)

➡労働者の茅葺民家は北浜に何軒か残っているが、所有者の方々は写真撮られるのも嫌がられているのであまり載せられないのだと思う。(副会長)

➡それぞれの地域の特性を、歴史文化基本構想の際にきちんと調べているという確認になった。資料2の7ページの図では、山と平地と川と海と記載されているが、高砂の海は瀬戸内海で特別なものである。(会長)

●テーマ5の近代化とまちづくりの中で海辺の再生について記載があるが、大きくて重たいテーマだと思う。一方で、他の地域計画をみていると、ふるさとの良さを思い起こす記述をするパターンが多い。10年後の未来を見据えると、これからご縁のできる人が、高砂の良さを知りたいと思ってこの本を開くというイメージを意識する必要があると思う。文化財だけについて記述すると、「何を捨ててきたか」という書き方は割と普通である。しかし、計画である以上は、あくまでも今から未来を照射するという意識が必要である。海浜部の埋め立ては、社会的な記述で難しい部分もあるが、その都度真摯な選択があって工業地帯に姿を変え、今に至るのだと思う。近代化とまちづくりで1テーマ設けることを事務局から聞いたときは、私はすごく良いことだと思った。今の生活者の立場から、どんなものを手掛かりにしたら過去へさかのぼれるのかというチャンネルは多い方が良いので、計画の中で大事にして頂きたい。1点気になるのは、写真以外の代表的な文化財で、具体的に書かれている所と、説話・伝承等と曖昧に書かれている部分があることである。事務局でもう少し具体的な整理を行い、できるだけ閉鎖的にならないような記述を考えて頂きたい。(会員)

⇒写真や文章の表現についても見直し、今回の指摘を踏まえて対応していく。(事務局)

- 例えば、資料2の10ページの法華山谷川と竜山の写真や資料3の23ページの高砂市役所の松等、大切な写真をもう少し大きくできないか。章の鏡ページに大きく入れても良い。白砂青松はなくなったが、市役所に松を植える活動等は未来につながる部分である。また、石の文化についても、屏風のように石が目に見えるという景観は素晴らしいものである。撮り方も工夫して、写真一枚でも説明でき、計画につながるようものとしてほしい。一般の人が見ることも考えて、写真で見せるイメージも大事にしないといけない。(副会長)

⇒各テーマを象徴するような写真の選別をしていきたい。(事務局)

～休憩(14:40～14:45)～

(2) 歴史文化基本構想の検証と文化財の保存・活用の課題について(事務局説明)

- 資料の作成の仕方をもう一工夫お願いしたい。例えば、資料3、20ページでは、様々な取組みと課題が記載されているが、いちいち細かく読んで自分の頭の中でまとめないといけない。表の上に要点をまとめて書いて頂きたい。ざっくりとしたまとめが書かれると、そこから次どう取り組んでいくかを考えやすいと思う。もう一つ意見がある。荒井には六左衛門の家は残っていないので、旧入江家住宅がクローズアップされているということは分かった。市としても今後重点的に取り組まれるものだと思う。私もここへ何度か訪れたことがあるが、地域の方々がボランティアとして説明したり、接待してくれる。地域の方がアイデンティティに感じて活動しているのは非常に良い保存のされ方だと思う。ぜひ、こういった地域への投げかけも含めた取組みを他の地域でも展開して頂けるとありがたい。また、突っ込んで検討して頂きたい課題がある。歴史文化基本構想の時にアンケートを取っているが、高砂市に住み続けたいという人の割合が高くない。なぜそうなっているのか、非常に気になっている。子育てや病院・学校の教育等様々な理由があると思うが、どのような働きかけをしたら、住みたいと思ってもらえるのか考える。歴史文化の側面から言うと、地域にどんな文化や遺産があるかを知ってもらうということが重要だと思う。参考資料1の16ページには年齢区分別人口が掲載されている。高砂市の人口を細かく年齢別にみていくと、20代～30代前半は女性に比べて異様に男性の人口が多い。高砂市には、鉄鋼業や機械の工場が多く、地図で見ると独身寮もたくさんある。そのため、その年代の男性が、他地域から引っ越して住んでいるのだと私なりに分析している。そういう人たちに興味を持ってもらうような、例えば「文化財をめぐるデートコース」のような取組みも必要ではないかと思う。県が兵庫テロワールというキャンペーンをしているが、残念ながらパンフレットに高砂市は出てこない。Web版でやっと高砂神社が出てくる程度である。兵庫県への働き掛けも含めて、文化財の周知や活用等の取組みも位置づけてもらいたい。(会員)

⇒資料については、読みやすくなるように工夫する。また、様々な課題の解決方法についてもご提案頂いた。できるだけ取り入れていきたい。(事務局)

- ➡歴史文化基本構想の策定以降、工楽松右衛門旧宅が改修されたりしているが、高砂に来る人は増えているのか。(会長)

⇒今手元にデータがないので正確な情報は分からないが、コロナ禍で減っている。(事務局)

- ➡例えば、曾根天満宮は梅が有名で私もカメラを持って行くこともあるが、梅の時期には外国人に占領されるくらいの人気である。地域によるのではないかと思う。(会員)

●歴史文化基本構想の4つのテーマごとにと組みを組みを評価しているが、今回は文化財保存活用地域計画として作っていくので、全方位的な形での見直しを考える必要がある。その上で、どこに重点を置くか検討をするので、初めから4つのテーマの話だけをしてしまうと、今のように観光の話が出たときに十分検討出来ていないということになる。文化芸術基本法では、文化財が言及すべき6分野が書かれているので、それぞれについて保存・活用の現状と課題を検討する必要がある。(副会長)

⇒<事務局パワーポイント投影>※議事概要9ページ参照

➡任意計画から法定計画になるので、ここに示された観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業の6分野を意識しながら、本日の資料を基に再整理されたらどうか。(副会長)

⇒ご意見を踏まえて、課題とその解決方法、具体的な事業について整理を進める。(事務局)

●まとめ方は今後大きくブラッシュアップされるかもしれないが、キャプションが「石1」、「石2」、「白1」、「白2」……等となっていて、パッと見て写真とつながらない。また、「学習会等」と「担い手育成」、「体制づくり」と「体制整備」等表記の揺れがあるので文言を統一すると混乱が生じないのではないか。また、地域計画を初見の人がパラパラ見るときには、写真が最初に飛び込んでくる。現在の資料では、人がたくさん集まっている似たような写真ばかりで、余り印象として残らないと思う。今後も事業として継続していきたいものに関しては、もう少しクローズアップしてはどうか。例えば万灯祭のJAZZコンサートの魅力的な写真を使う等、写真ばかり眺めても一種のガイドブックになるような、やりたいことや大事にしたいものが伝わってくるようにしてはどうか。(会員)

⇒写真に関しては手持ちのものを掲載しているので、色んな方が見て分かりやすいように、見直していきたい。また、資料の文言等についても統一を図る。(事務局)

●資料4では、調査・研究の課題が記載されているが、これはどの様に整理したのか。文化財の全分野に対して進行状況を調べる必要があるなので、再度確認してほしい。(副会長)

⇒ご指摘の通り偏っている部分がある。これまでどのような調査をしてきたのか、今後どのような調査が必要なのかを再整理する。(事務局)

(3) 文化財の保存・活用に関する重点的な取組みについて (事務局説明)

●みなとのまち、石の文化、塩づくり、白砂青松の4つのテーマを順繰りに整備していくというイメージだと思う。何順かする間にテーマ全体が整ってくるというイメージではないかと思う。(副会長)

●関連文化財群のストーリーは、日本遺産のようなものと捉えたら良いのか。(会員)

⇒そうである。(事務局)

➡それぞれの文化財を無理やり5つに分類しないとイケないのか。例えば石の宝殿は、どのストーリーにも含まれても良いのだとおもう。竜山石の歴史を巡るストーリー等のストーリーを立てた場合に、既に整備しているものと、ストーリーを紡ぐために今後必要な整備等を整理していくことになるのか。(会員)

⇒そういった整理を具体的に行う必要がある。(事務局)

➡5つのテーマとは全く違うストーリーを作ったほうが良いのかもしれない。5つのテーマと関連文化財群を無理やりと1対1にしなくても良いように思う。(会員)

⇒1つの文化財で様々なテーマに関係するものもある。現在は、各テーマの拠点となる施設を重点的に整備するというイメージしている。(事務局)

- ➡整備できる施設の検討から始めると重くなるので、関連文化財群のテーマを先に掲げたほうが整理しやすいのではないか。(会員)
- ➡お金が一番かかるハード整備だけを書くと止まってしまう。例えば道標めぐりのような、1年で出来るような軽い取組みもある。(副会長)
- ➡今ある資源だけでつくれるストーリーを3つか4つ作ってしまって、その上で拠点整備を行えばもったときらめくという絵の方が現実的ではないか。(会員)
- ➡例えば竜山石とか北前船等、何か歴史的なトピックに関係する文化財があるときに、分かりやすいラベリングのためのものとして群を設定する、それが関連文化財群であるというのが国のオフィシャルの考え方である。同じテーマを持つ文化財は一体的に整備していく必要があるので関連文化財群として意識する必要があるという考え方である。一方で、地域計画をつくるときに、歴史文化を象徴するテーマを分かりやすいキャッチフレーズで表現することも国は求めている。どうしてもそれらが、混合化してしまうパターンが多い。なぜなら、結局テーマに沿って関連文化財群を設定する方が、取りこぼしが無いという考え方だからである。しかしそうすると、国が望んでいる関連文化財群の定義とは異なる。(会員)
- ➡高砂市の場合は、4つのテーマを横断して近代化とまちづくりという軸を定めている。それを主軸にストーリーを組み立てれば良いのではないか。他の4つのテーマでくくると今までとあまり変わらず、どうしても止まってしまう。(会員)
- ➡国がイメージしている関連文化財群に近いのは、石の文化と白砂青松である。塩づくりが一番具体的に盛り込みすぎているので、見直しを掛けないといけないと思う。(会員)
- ➡高砂市として整備したいものをまずピックアップして、それに関連させていくようなストーリーを作るのが良いと思う。(会員)
- ➡普通の計画はそうである。ターゲットが先にあるので、それにどのように理由をつけていくものである。5つのテーマに沿った関連文化財群では、なかなか具体が見えないので、もう少し揺らしたほうが良いと思う。(会員)
- ➡近代化等を中心に関連文化財群のストーリーを組み立てていくと、零れ落ちたものを拾い上げやすいのではないか。他の4つだと、これまである程度整備してしまっているような、分かりやすいのものしか出てこなくなってしまうような気がする。(会員)
- ➡近代化以外の4つの分野できれいにまとめてしまうと、報告書では美しいが市民の目から見ると零れ落ちた物が多すぎるのではないか。地域の要望が汲めるようにしておかないと、実施しづらい計画になるのではないか(副会長)
- ➡高砂市の特性にマッチした形で計画を展開することが重要である。先ほど曾根に多くの外国人が来ているという話があったが、十輪寺にも海外の方が参拝されることはあるのか。(会長)
- ➡十輪寺には海外の方はほとんど来られない。それよりも、ボランティアやガイド等に連れられて訪れる人が、コロナも落ち着いてきて増えてきた。最近も、近鉄・阪急・阪神・南海・京阪の私鉄五社が集まって歩くイベントを行っていた。そういう取組みが増えている感じがする。(会員)
- ➡コロナ前とはまた違った展開が起こりつつあるということか。(会長)
- ➡そうである。また、有名な人が訪れてYouTube等で取り上げて火が付くということもある。例えば、茂木誠さんという有名な塾の先生が、珍しいものだということで石の宝殿にわざわざ来られて自身

のYouTube で取り上げられた。それを視聴している人も多いと思う。(会員)

➡万灯祭の最大のコンサート会場は十輪寺で、今年は4年ぶりに本格開催される。(会長)

➡万灯祭全体をYouTube で中継する等、ネットも活用して色々取り組んでほしい。(会員)

(4) 市民アンケートについて (事務局説明)

●高砂市のラインアカウントには、2500人弱の友達が登録されているが、ラインを使ってアンケートを実施する予定はないのか。(会長)

⇒その予定はない。(事務局)

5. 今後のスケジュールについて (事務局説明)

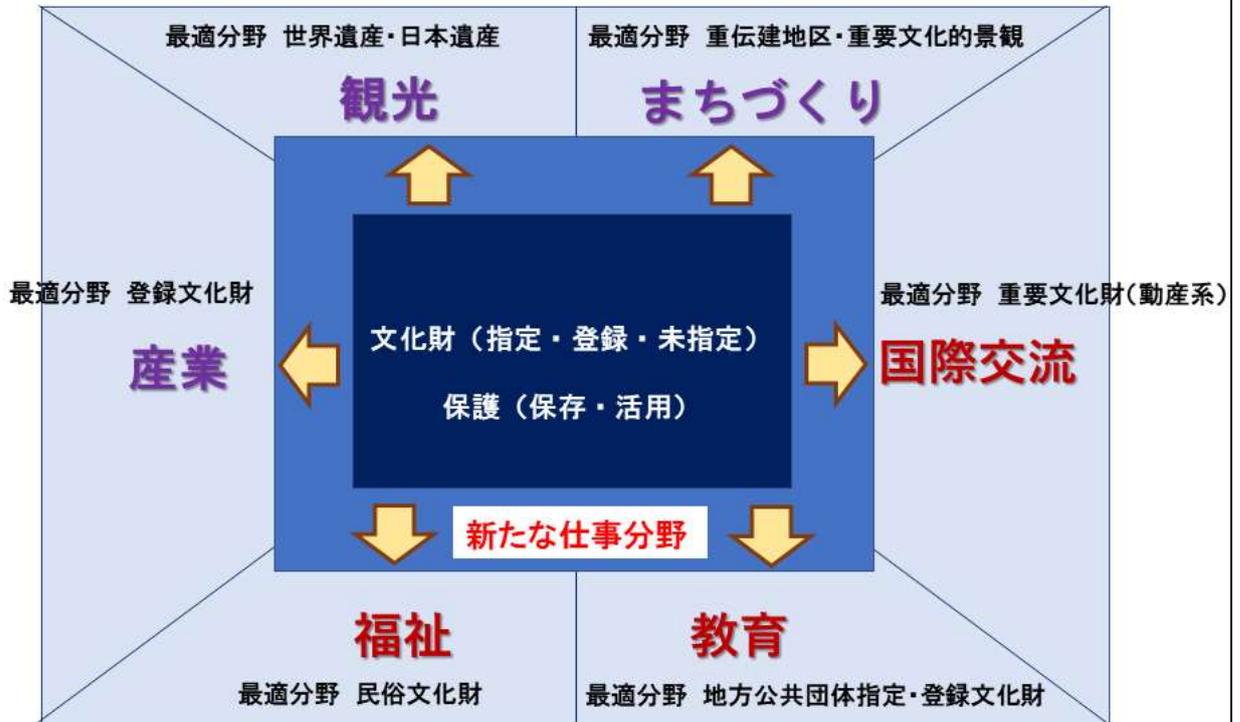
6. その他

7. 閉会 (事務局)

※参考

歴史遺産の活用から新たな職を拡大する人材育成へ

文化芸術基本法が求める実効性のある貢献策を提示すべき分野



各文化財分野の特性を引き出すとともに、文化財全体へ表現を拡大するにはどうしたらよいだろう。各分野のプロに文化財分野を取り込んでもらうインターフェイスは何だろう。

1